

メモリアルデー特別集会アウトライン

(2019年5月24日ー27日)

2019年メモリアルデー特別集会のための標語

わたしたちが行なうべき最も重要な事は、今日キリストをわたしたちの享受として経験し、召会が建造されて彼の栄光となることです。これは、わたしたちが主の回復の中で守られて、主が再臨するに至る道です。

今日の主の回復の中で、わたしたちの間には緊急の必要があり、それはクリスチャン生活の模範を知り、経験することです。神・人である救い主としてのキリストは、ご自身をむなしくし、ご自身を低くし、そして神によって高く引き上げられ、栄光を現されました。

力づける方としてのキリストの中にいる秘訣を学ぶことは、キリストの中に住む秘訣を学ぶことです。キリストの中に住むことは、彼の中に住むこと、彼との交わりの中にとどまることであり、それは彼がわたしたちの中に住むことを、わたしたちが経験し享受するためです。

今日、主の回復の中で、わたしたちはキリストの中に見いだされ、自分自身の義を持つのではなく、神からの義を持って、キリストを経験し、享受し、彼と一になり、彼にわたしたちの内側で生きていただくことによって、彼を知ることを切望すべきです。

キリストを経験することの内在的な意義

聖書：ピリピ 1:3-6, 19-21 前半, 27. 2:2, 20-21, 30. 3:1. 4:1, 4

I. キリストに対する経験は奥義です：

- A. 神は奥義であり、キリストは神の奥義であり（コロサイ 2:2）、召会はキリストの奥義です（エペソ 3:4）。ですから、召会は、実は奥義の中の奥義です。
- B. わたしたちのクリスチャン生活は奥義です。例えば、人の愛は有限ですが、クリスチャンが生かし出す正常な愛は無限です。ですから、クリスチャンの愛は奥義です——参照、19 節前半。
- C. キリストを大きく表現することは、限りなくキリストを表現することです（ピリピ 1:20）。それは全宇宙に、わたしたちが生きるキリストが無限であることを表明することです。
- D. パウロがキリストを無限の忍耐として経験することは、無限のキリストを大きく表現することでした。わたしたちがイエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によってキリストを生きることを通して持つ属性はどれも無限であり、それゆえに奥義的です——19-21 節前半。
- E. わたしたちが人を赦すことでさえ、キリストを大きく表現することである必要があります。わたしたちが赦すことは、無尽蔵のキリストご自身がわたしたちの中で大きく表現されることです——マタイ 18:21-22。
- F. 苦難のただ中で、わたしたちは単純に主を愛し、彼を経験すべきです。そのときわたしたちはキリストを大きく表現し、彼を無限の方として表現します。苦難を通してキリストを大きく表現することは喜びです——II コリント 12:7-10。
- G. キリストを経験することは奥義であり、わたしたちがキリストを経験することは何であれ無限です。わたしたちがこのビジョンを見るなら、それはわたしたちの生活を制御するだけでなく、またわたしたちのクリスチャンの歩みを強めます。神の意図は、わたしたちを通してキリストを大きく表現することです。
- H. 召会生活はわたしたちのクリスチャン生活の総合計です。わたしたちはみなキリストを生き、わたしたちのクリスチャン生活が共に加えられて、召会生活となります。わたしたちが召会として共に集まって来るとき、わたしたちは完全な奥義です——I テモテ 3:15-16。
- I. パウロは、「わたしにとって生きることはキリストであり」と言います（ピリピ 1:21 前半）。これが意味するのは、わたしたちが生きることはキリストであることができるということです。わたしたちが経験し生きるキリストは奥義です。わたしたちは、自分の経験に対していかなる確信も持つべきではありません。なぜなら、キリストに対するすべての経験は奥義的であるからです。

II. ピリピ人への手紙が明らかにしているのは、キリストを経験することが、わたしたちが福音を前進させる交わりを持つことであり、主イエスが再臨するまで続くということです——ピリピ 1:3-6：

- A. わたしたちが救われた時から、主イエスが再臨する時まで、わたしたちのクリスチ

ヤン生活は福音を宣べ伝える生活であるべきです：

1. キリストを経験し享受する生活は、福音を前進させる生活、福音を宣べ伝える生活であり、個人的ではなく団体的です。わたしたちは福音を前進させる交わりを持って持つほど、ますますキリストを経験し享受します。これはわたしたちの自己、野心、好み、選択を殺します。
 2. わたしたちが語っても静かにしていても、わたしたちの命、生活、存在、パースン全体は、キリストを宣べ伝えることでなければなりません。
- B. パウロはわたしたちに、「キリストの福音にふさわしく」振る舞うように、すなわち、「一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘して」いるようにと命じています—— 27 節：
1. 福音の働きのために一つ魂であり、同じ魂であることは、一つ霊の中でキリストを経験することよりも難しいのです—— 2:20-21, 30。
 2. 一つ魂であることは、わたしたちが霊の中で再生された後、前進してわたしたちの魂の中で造り変えられることを必要とします—— II コリント 3:18. ローマ 12:2。
 3. もしわたしたちが情感、思想、決定において一でないなら、一つ魂ではありません。わたしたちは魂において一でない限り、福音を前進させる交わりの中におらず、わたしたちの振る舞いは福音にふさわしくありません。
 4. 召会のすべての肢体が一つ霊の中にいて一つ魂であるなら、この一は人を納得させ、従わせ、引き寄せ、わたしたちはキリストを経験し、彼を享受します。

III. 厳密に言って、ピリピ人への手紙はキリストを経験することについての書であるだけでなく、キリストを享受することについての書でもあります：

- A. ピリピ人への手紙はキリストに対する経験と享受についてであり、その結果は喜びであるので、それは喜びと歓喜に満ちた書です——ピリピ 1:4, 18, 25. 2:2, 17-18, 28-29. 3:1. 4:1, 4。
- B. キリストを経験することはおもにわたしたちの霊の中でのことですが、キリストを享受することはわたしたちの魂の中でのことです。食物を食べさせられても享受していない子供のように、多くの時わたしたちはキリストを経験しても彼を享受していません。
- C. ですから、わたしたちはキリストを経験しても、キリストを享受していない可能性があります。この問題は、わたしたちの魂（わたしたちの思い、感情、意志）にあります。
- D. 「わたしは、あなたがたがあまりキリストを享受していないかもしれないことを、いくらか心配しています」（「キリストを経験する」、第 2 章）。多くの人がキリストに対する享受を失っているのは、彼らが魂に問題を持っているからです。もしあなたがたがあまりキリストを享受していないなら、それはあなたがたが魂において一でなく、魂において結合されていないことを示します（2:2）。
- E. ピリピ人の間に、思うことで不和があり（4:2）、それが使徒を悩ませました。ですから、彼は彼らに同じ事を、一つの事をさえ思って、彼の喜びが満ちるようにすることを求めました（2:2）：
 1. この書の文脈によれば、「一つの事」は、キリストに対する主観的な認識と経験

を指しているに違いありません（2 節. 1:20-21. 2:5. 3:7-9. 4:13）。キリスト、キリストだけが、わたしたちの全存在の中心性と普遍性であるべきです。

2. 一つの事は、召会生活、からだの生活のために、キリストをわたしたちの享受として主観的に経験することです。この一つの事は、絶えずわたしたちの思いを占有しているべきです。わたしたちが一つの事を思うなら、キリストに対する享受は直ちにわたしたちの分け前となります。
3. わたしたちの思うことは、キリストに対する知識と経験の卓越性に集中しているべきです（3:8, 10）。他の何かに集中することは、わたしたちに異なることを思わせ、こうしてわたしたちの間に不和を作ります。
4. 一つの事以外の何かを思うことは、神のエコノミーに反逆することです。神のエコノミーは、わたしたちが一つの事を思うことです。
5. ピリピ人の信者たちは、彼らの思うことでの不和のゆえに、異なる程度の愛を持っていました（2:2）。彼らはすべての聖徒に対して同じ愛を持って一を守ることをしていませんでした。聖徒たちに対するわたしたちの愛が調整され対処されているなら、わたしたちは聖徒たちを愛するとき、キリストを享受します。
6. 魂において一であり、魂において結合されることは、キリストを経験するためだけでなく、それにもましてキリストを享受するためです。わたしたちのキリストに対する経験は、キリストに対する享受でもあるべきです。
7. キリストを経験して享受があるために、わたしたちは一つ霊の中において、一つ魂を持つ必要があります。キリストを享受するために、わたしたちは正しい魂、すなわち、他の聖徒たちの魂と一である「共同の魂」を持つ必要があります。
8. わたしたちが行なうべき最も重要な事は、今日キリストをわたしたちの享受として経験し、召会が建造されて彼の栄光となることです。これは、わたしたちが主の回復の中で守られて、主が再臨するに至る道です。